巻藁 奉射 草鹿 笠掛



上 [illegible]

其萬之書

六一







巻藁之書

一 夫巻藁ハ皇帝于殷ニ及ヒ戦ヲ以下とも尖兎勇猛ニて更ニ利ある時ハ故ニ巻藁ト云ハ枕ト作り鼻射ル時ハ長矢尺ニて大概六尺眼耳鼻口ハ云ニ及すして繪鳥ニ押付七日

七夜稽古して夜半後付乞しける

たり蟬鵰も古代ハ基學ノ文證多く

業ホ横笛ハ寒暑にしてありそれハ太和

業ホと胴迦しふ切之氏業ホ并射

中うハ禮容をわさとす、し夫ハ角木

一年去ろ之しけるゝあれ蘇と血

うしん角長の根とハ宗武ゆえ藏ヲサム

ゐし声々を掛奉り古代ハ礼法之

又巻筆ハ弟ニ婉ニ妻ニ面掛て

名目ハ例りらにはちを掴ニ云事之

書ニハ右の手ニ治るを女ハ象して

名付之文雄ニ雌ニ小わきハ左ハ進て

先ハ出陽の象之右ハ退る後小ゐれハ

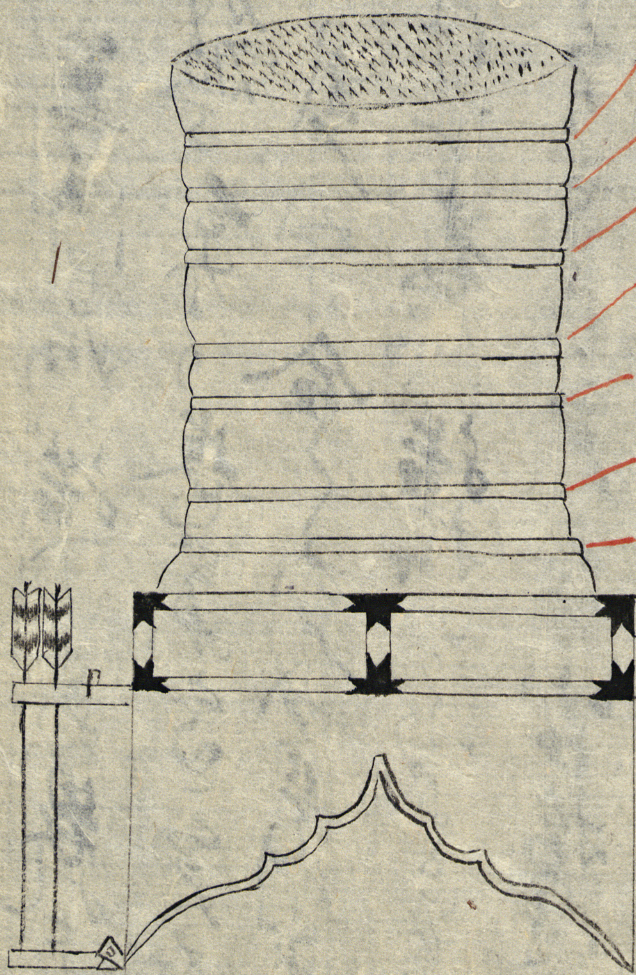
陰の象とハ雄乃字ゆと読ハ乃

乃ちに不通し雌ハ女と訓ずまハ尤思

無なり今世ハ当馬事とよせて大ニ式ハ

小的の垜（アツチ）に米（ツ）要（クスヽ）束と云事あり奉（ブ）
射の跡にて貴人ハ小的を具しての時必
此津会に小的を懸く射ての中興へ
此垜を止て垜と云事を構へり此
津会ハ要束とて一抱（ヒトカヽヘ）程に巻要束とて
其上に小的を懸る垂之要束也小口ハ指
径（ワタリ）二尺余なり纔にて二寸中を結し
又茅的と云あり茅草を束ねる之

米芾泉丸遺風なり



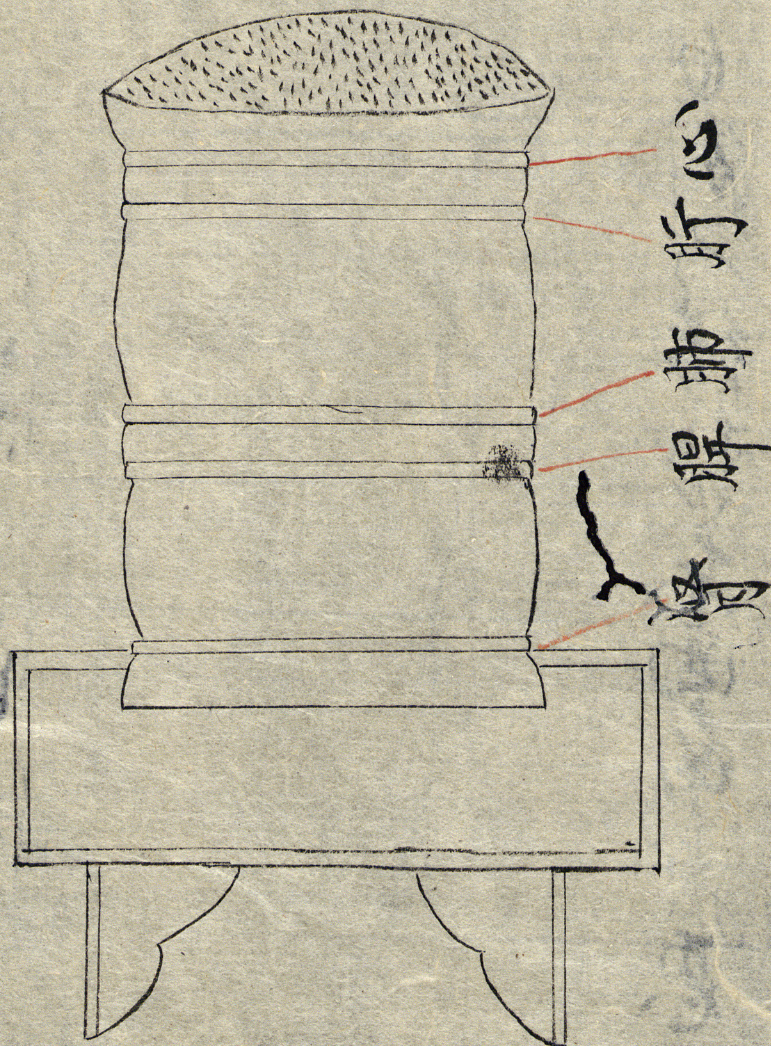
一此胴　公方御弓始ニ諸進し画墨丸七ほ
と射破る所なり巻藁ニ高さ三尺八寸
長サハ弐尺八寸合て五尺也是的黒丸
がきけと表ニ諸板いふ也まき藁
とする高さ三尺八寸小口指渡し
大凡基本ニ画図し継矢長にする
を等分つゝ又上藤ハ穂先を中セ
ちゝくれて絹の縁かへて縫し

足緒茶組の細 又ハ家紋と
尤貴人平人ハ其好次第へし

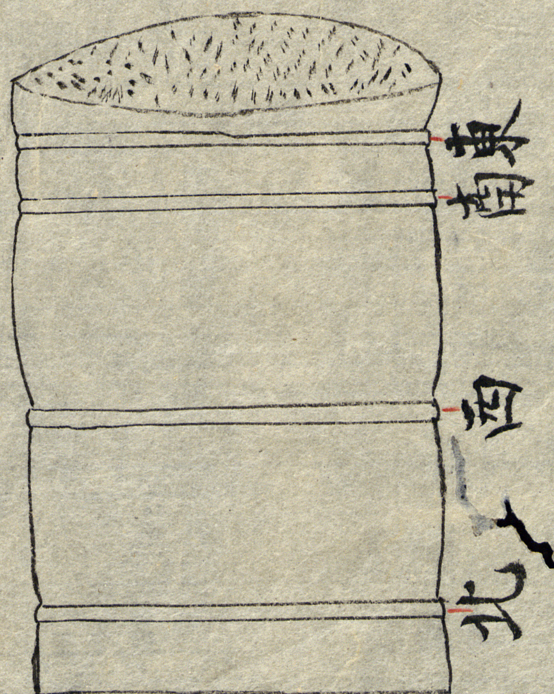


一 此胴貴人の御弓始乃時張へし 忠要
乃六根を射破るの義長さ二尺寸
上の指径二尺へ三寸之下ハ弐尺寸二分但
よこよりすそをうつり之間黒く 此へし
又仕立の様ハ上中下有し 塗も金具
こと表羽草有へし 此中口伝

一此胴年少人桛吉不結之　魚鬼乃



家を射候て観念なり



一幽霊白洲ニ結於也東西南北恐

鬼を射る極也

右一巻者当家代々来之深為
秘書雖不浅依懇望之労
令授与畢用而之亦猥他見
他言有之間敷者也

奉射之次第并的絵図

一 射手六人一結ニひきて三度宛射之六人乃矢数以上三十六筋

一 出立之事上古ハ烏帽子直垂ニて異なるを後之略儀ニて

衣かミしも上下にて射之

一 数草乃弓に毛を上にして弓と矢とを川に於て横に折て

八四ツ折之弓と矢を取渡向ひさけていりきを我方へ向く

指發时白色の方をハおもせとおりをハ東ニ向ケて白毛

をハ的乃方へなりして發白毛の方を下にて左右より左て

下に如く陽を前にて上の方を右乃足ニて乃なを右へ又之あ

奥紙納ク时ハ矢ノ尻を弓にとりそへて右の手にとりて

一　きゝかへ扇をとりて右乃方の前後ろへ下り扇にておさ
へてむかふ弓後弓共に同前之
一　弓立る時ハ前弓後弓兄人互に内よくに立ておもて二枚の
前ハこもの数合のきはより右の手より矢端とりてくゝ
弓を持たの手よりて元ほどをとりて之余にはる
一　弓立る足を八文字にふみ扇を下の通りに弓を横たへ
的を見合能く立定め信弓を元取り右の手にて弓手乃
下を取三ツかハに立て袖ぬきすわりの袖をとたまて刀乃
さやの下より引まハし常にまさゝ右乃肩より直ちに乃元
拝居礼をしの拝し座下を四寸さけて
上へあけ右の手にて横にして持ち直後弦を取てなりとかへ
えて矢を先くい本張をとさ乃中にして中矢とも
けて後矢乃こくし矢尻を以前の方へ左に寸当て持

右乃手よりて文形紋をかハ流して乃小兒尻之向矢尻をとる

右乃手にて文字絞をとりいたしてろふ足尻之取矢尻を持
弁上にハ初指にあてゝ弓手乃下をこれ右乃方の足九きハ手
そこにて左手にて札さ見へ袖をハつまりと引立て肩をと後
本のことくかへ弓をとりかけ右の足を披きうしろ後陵
射もとくさき見合て立直て抱別弓手能見合て
一弦切ときは弓弓矢にて諸々ひきりさつて納めに袖を
其うしろいたと入てもとの如くに衣をからへを待てしお
其ハいかにしそて弓携をして侍之ね介添弦をね其かいに承め老
弦を上さけて持弓後に是をつ長てもの袖を右のまへくく
ろと持上後日人此弦きれたる弓をおさ札として弦替
をかす後弦切まへ弓をハさいそくに請るとあちのまりれさ
乃ちに弓立之後弓其時射箇ーし又後弓をもやすて

渡切りて出揃前弓射ましくて弓構をして渡し
右注者ハ前弓同前之前弓後弓共ニ中才矢とて注き之続くて
池籠弓出すましく合をし

一 矢取出ると事すハく稀まくとし立をとりとて
うちをむくし矢取り進時ハ手にまをと注きくる遠くすし
矢をとりくに棒やうたくしまて矢志りを指右乃手にて
袖をとり扎袋の色と紙取介添役時取出し右の手にて矢
庭を指たまく袖をとり扎袋乃色ましと紙取て渡也

一 的場の庭さ紙三枚に折て紙一枚に可立足式之乃去取す
よりそこを肉まも不苦

一 斗塚の高サ七尺八二寸上乃廣さ五寸之砂まくて注も下
後の取塚をちと的乃方へ五寸高之

一 的乃勢ハ五尺二寸注宮のとし

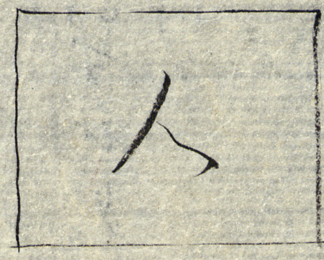
一 ……の寸法……七尺八寸……八寸は立……也

一 くしの寸法横串七尺八寸内法六尺八寸但五分ニ寸地
上六尺六寸之上三尺五寸地ヨリ婦ハさきりに二寸計的掛
板ハ三寸八寸下六寸に至ニ下し末さき五寸計ハく可出
一 隙の長サ一寸八分板をきる頭く寸ト三所三様ニ作り黒くぬる
ゑのさうひよ付へし
一 的ハの事布練水色に染て上にまんせんを前ニ
付之布をたゝミ六の之たきハ横串と上土俵を乃天之寸を
を積乃糸ニ乃こく縫て二寸計ぬいさしてきく
とちを付置し まこてしに引くるく竹をとおる糸
前くぬいめれ出とく とちくおく



丫三へいとゟ





三度弓後　卅リ入三人

とよ自去三

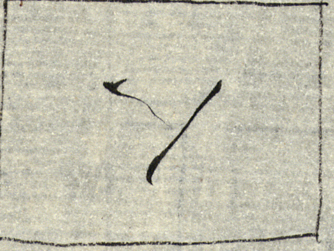


二度弓後

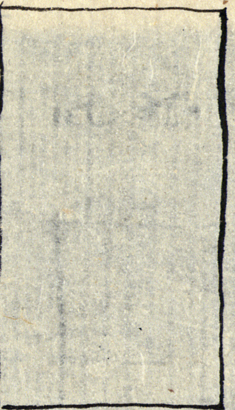


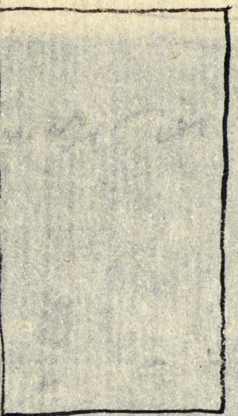


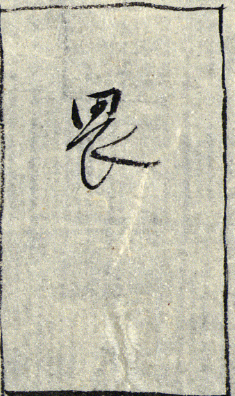
与太郎

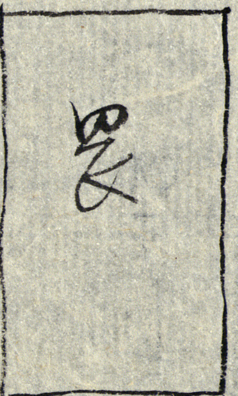


与吉郎殿






畏


畏



一尺寸ノ地

白三尺分

内黒寸

白三寸

地際寸

中黒寸

白二寸

外黒三寸

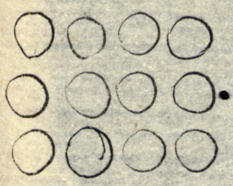
一尺寸ノ地

一日記ハ帯ニ一重を結て掛く可キ絵図如此



小笠原右衛門尉

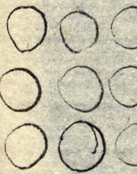
弓場始日記

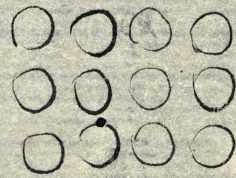


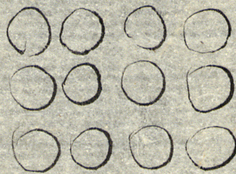
一番

一山中左衛門尉

小笠原中務少輔







二番

武田花写之

大膳大夫

三番　正親源六

小笠原大膳大夫　名

同　右京亮　名

小笠原長経　名

右此書任御執心旨記進之上、努々子孫之外不可有他見者也

草鹿之巻

一右大将家冨士の巻狩にて弓馬を
射させられ候ニ庄司三郎と申者
ありしに時の家臣殿原より御尋の処に
申されハ小笠原次郎長光申候
ありし鹿の跡と馬の跡とを寄合られハ
十一枚也是ハ活たる鹿之今の札ニては
死たるかれしいとて九枚にまはに定る之九枚
串ニ五行枚也又ハ三串小鹿ニ

かくて草履の緒にて別にかし
ひみへむけて戸八寸面ハ八寸ある
へし
一草履の棚と云は同前也
一上古ハ草をくゝみ作る也後代先を
紙にて張股の廉まわしらへ取つけ
袋は長さ一尺八寸置は八寸頬の長サ八分余
両に寸ある脊通り小星七ツ大中の星
四寸ありて上星八ツ有て大小星又ハ四ツ
矢かくれにりし星の前後小星四ツ宛也

一脊通間守裏表に二ヶ所乳の様にて
川通は是ハ腰縄之

一繋ハ十枚小札を九枚半に半を定し
青ハ草を麻と張作りて以帰
ものなりしハ野菜の麻とかくもとより
うつて網しひ物とするもの也 桃古
なり故に草麻の名あり中古迄と改
小札をツリシメしせしより法数の麻と作り縄に
し狗骨筈を矢と以て射るなり

一革中り勤を以て其節のしめ

ト

一草鹿ら野草ハ中ヲ先ゟ射
表しても足とゑしぬ苦き

一草鹿九ッ柱の時ハ馬場ハ次の繁り
取る是し　三的の時ち庭の外小繦
可く　小的の時ハ西之の方へ二番き
撰の方ハ先ゟ二枚まて何度も

是し

一六



右一巻者當家傳来之說

笠掛之巻

九八

笠掛之巻

笠掛之巻

夫笠掛者弓馬兼備之法也往昔源頼朝卿御時下河部行平於相州由井濵見網代笠翩翻追伏者於馬上難射之云云是以初而催興与諸士射之尓以来世世主将定法式而令行之誠射騎要術之上而已蓋弓矢者治則備非常乱則退凶賊其徳不可勝計云尓

一馬場経営之事　撰吉日良辰勧請三神而置鳥置鯉瓶子

一對銚子提雛形等飾置可執行也地祭別巻有之

一同惣廻長八十間程幅二十間余也廻埒ヲ結ヘシ高三尺六寸

埒ハ弐尺七寸也

一蹴之支長サ五土杖也但馬場本弭之通迄三十三杖矢

道ヨリ馬場末迄十八枚也本末之扇形五間亦ハ三枚也疏深サ
六寸上ノ幅弐尺余底ニテ一尺八寸也
一土手ノ長サ疏同前土居敷八尺高五尺計上ニテ二尺見合様子
能可築
一外埒ト土手間三間土手ト疏ノ間一間半疏ヨリ的迄七枚也但疏ト女
埒ノ間一間女埒ト芝ノ間一間芝ト砂ノ間二間但三方ニ芝ヲ敷也
芝ヨリ的迄五間的ヨリ外埒迄五間此間ニ砂ヲシク也
一疏ト的ノ間ノ埒ハ指埒或竹或檜黒文字ニテ結ヘシ高サ如前但的ノ通ヲ
五間明テ結之同亦五間ノ内ニ木丸立其上ニ太縄ヲ渡シ置亊モ有之傳
一垜之遠サ之亊疏ヨリ九枚置垜ヲ築ヘシ委細別巻有之
一的串之亊三方ニ長五尺寸黒塗也苗後ノ串立様口傳大的ノ外ハ何
レモ塗ヘシ
一的之亊経一尺八寸檜ノ以薄板ヲ綱代ニ組加常之張繪可ㇾ

一的之事經一尺八寸檜ノ以薄板ヲ綢代ニ組如常之張繪可レ
出也釣縄口傳

一矢草之事串同前仕建様奉射百手ニ（イ同）異事此時ハ笠
掛ノ矢草亦布草ト云

一的ノ左方ニ見物所有ヘシ大小人ニヨルヘシ偖幕ヲ引廻リ
何モ常ヨリ桟鋪ヲ高ク作ルヘシ同亦所々番所有ヘシ

一同左方ニ的ヨリ一杖前ノ方ヘ寄再伴振帳付ニ告ヘシ帳付ハ文
臺ニ硯料紙ヲ置再伴次第ニ附ヘシ

一馬場本ノ方ニ假屋有之幕ヲ打射手装束等可改也

一弓ノ事村削側白木亦相位弓ヲ用也矢ハサワシ篦羽ハ[illegible]
真羽肩中黒鷹ノ羽也但矢五筋モ有之ハ両鶴ニ計モ宜也拔
篦ハ畧儀ナリ何モ張替々矢有之ナリ

一蟇目之事長サ四寸巻目三所亦ハ五所撚糸ヲ以テ巻漆ヘシ削
樣口傳
一検見二人呼次一人弓ノ左ニ帳付ト並鋪皮ヲ敷着座スヘシ
一矢取三人的ノ右ノ方ニ居ヘシ若シ貴人ト平人トノ笠削取有
之時弓ノ左ハ貴人矢取居也左右モニ的ヨリ一杖披キ着座
スヘシ口傳
一馬ノ事髪切タルニテハ射間敷ナリ但タカイカ髪ニテ少々巻
程有之ハ不苦ナリ
一同巻髪之時ハ宿ニテ解ヘシ馬場ニテ不可抜
一力革之事常ヨリ短カシ太サハ長カ能也四寸或五寸傳但射手
ニモ依可
一弓ノ手綱長サ曲ヲ取リテ乳ノ間ニ持也身ニ近モ亦遠
キ凶也立スカスニユルノハトスル程ニシテ見能程然ヘシ射手懐

一片ノ手綱長度曲ヲ取リテ乳ノ间ニ持也身ニ近モ亦遠
モ凶也立スカスニユルノハトスル程ニシテ見能程然ヘシ射手装
束ノ事一番俗衣二番烏帽子調度掛ノ二番直垂四番太刀五
番沓又拾同弓小手六ハ番行縢七番刀八番沓九番馬十番
蟇目同累儀ニハ青月襖袴ノ或長上下ニテモ勤仕例モ有之

一弓持様之事馬之耳之間ニ策ノ有様ニ持ヘシ横ニ成易物
也心得ヘシ但弓ノ強弱有之トテ色々ニ取替ハ尾笠竜之張
替ホハ袋ニ入持セテモ不苦也

一蟇目持様之事輪キ取ヲ馬ノ右ノ耳ノ内ニ成程ニ持ヘシ弓
ニ不可為持外ハ袋ニ入テ小者ニ持スヘシ

一射手何騎モ可有之縦令ハ十人ノ時ハ五人宛二行ニ立ヘシ
若貴人ト平人ト並ヒ射ル時ハ貴人ト平人ト五人宛両方ヘ分リ
射ヘシ立取高下着座ノ次キノ亦可依人口傳

一射手馬ニ乗ニ扇形ヨリ外ニ何モ扣ヘ居各或臺有之ヨ
倚馬立所ヘ一二三ト次第ニ並居先何モ徒ス馳稽古者
ヘシ雅人ハ通シ終何偏モ徒稽古可有之其時ハ弓不持
尤不苦之同亦矢代ニテ射ル事モ有之

一惣射手通シ終テ馬出ヘ皈以前ノ如ク一番二番ト段
々扣ヘ扨一番ノ射手扇形ニ扣ヘ居ル二番如圖外ニ扣ヘテ次
第々々ニ歩入射ヘシ

一各一偏射経而馬出ヘ皈本ノ如ク並居之此時ハ前ノ一番
ノ射手一ノ跡ニナリ二番ノ射手一番ニナリ故ニ馬出ヘ的ル最
其心得ニテ扣ヘシ十番迄段々如此一番ニ操出ス之但矢代ニ
テノ射ル時ハ此沙汰不可及也

一的見ル事披キ出シニテ矢筈取テ歩ノ上操ニ二度射放ニテ
一度次上差ニテノ目一ツ残スト云口傳

一弣見ル事披キ出シテ矢筈取テ打上様ニ二度射放シテ
一度返上差シテ目一ツ残スト云口傳
一矢用之事馬出シテ用フヘシハケナカラ行ハ凶之但七八度
射テ暮ニ及テハ不苦也
一箭構ノ事蟠目ヲ烏帽子ノ高サ程ニ打揚ヘシ此時弓ヲ
後ヘ引ハ凶之
身通成ヘシ射放テ弓横ニ不成様ニ可持也
一矢指ハ肩ヨリ拳ノ方少シテ下ルヘシ但シ水走ト云
リ箭先少シ下ケテ見能也少シ下ケテハ下リテ見ヘ又
モノ之心得ヘシ
一射様之事走ラカシテ押手ヲ的ノ方江當ル様ニシテ弣ノ
後串ノ通ヘ馬ノ足カキ入時分跡ヘ捻リ向様ニシテ放残心
シテ扨手綱ヲ品能取ヘシ口傳

一披キ出ス先ニ矢取落ス時ハ馬ヲ居テ扇形ヘ皈矢ヲ
取射ヘシ若埒ニツカヘ馬皈リカヌレハ其侭通スヘシ同
亦諸出抜落叓有之如右皈テ乙矢ヲ取射ル也若披キ
出シテ後抜ハ箭ヲ指弛テ弓ニ持副通スヘシ
一馬キレテ埒ノ外ヘ上ル事有之未披キ出サヌ時ハ二
度迄ハ矢ヲ指弛シテ馬場本ヘ皈テ射直（ナヲ）スヘシ
若披キ出タルニハ其侭埒ヘ乗入披キテ射也但射ラ
レサル時ハ矢ヲ指弛弓ニ持副通スヘシ
一的ノ通ノ鳥迄ニテノ弓取落ス時ハ拾揚取テ馬場末ヘ持行
渡ス之若矢取持来ル叓モ有ヘシ取様ハ人ニ依ヘシ
一馬乗スカスト云叓埒ヘ入テ乗ヲ出シテヨリ立ヘキ之
鞍ニ立時ハ腰ヲスヱ鐙ヲサウトウノシヽニ踏付テ膝ヲスヱサセ
尻ヲ鞍ノシツ輪ニ當ル様ニシテ腰ヨリ上ハ可成直也

尻ヲ鞍ノシツ輪ニ當ル様ニシテ腰ヨリ上ハ可成直也



去居

同将
指将之

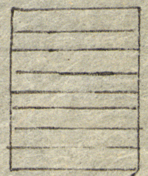
棧敷
長六間
幅五間計
口傳

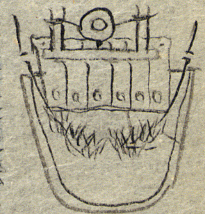
次之間

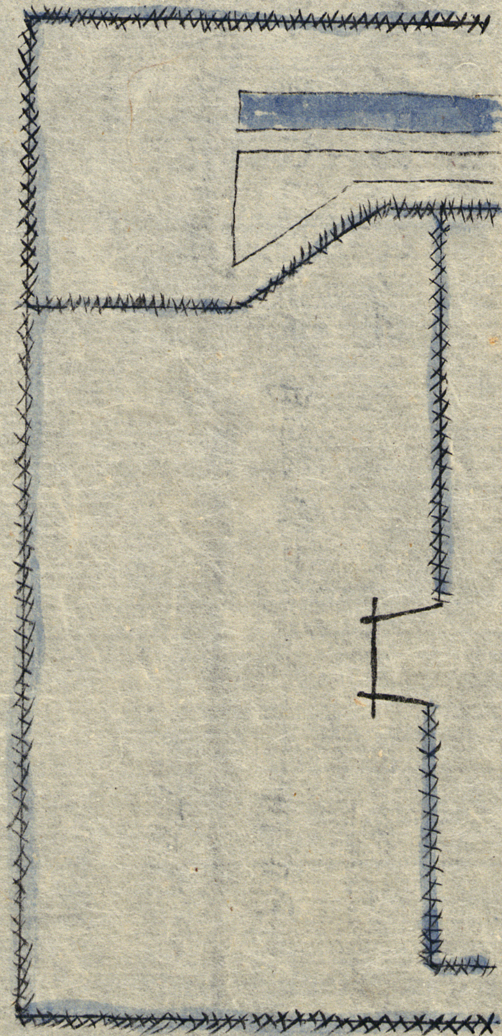
勝手

番所

檢見
帳付







右如此雖記置口傳等上古以來・面授口訣而非其人者
不許授受以傳吾家之令為庭訓非所筆墨盡
只為愚昧之子孫粗書載者也

小笠原備前守
持長

同　民部少輔　持清

多賀豊前守　高長

同　豊後守　高忠

寛正五年十月日

延享乙丑年三月　長經写

天明七丁未年四月六日　主忠写之

文化六己巳年三月六日　親賢写之



H+K 2 GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart 15.01.2002